

令和6年度 中央区立阪本小学校 外部評価報告書

外部評価委員：安西 暉之、今野 克彦、江本 良雄、石橋 千佳、本橋 慶子、
田村 俊夫、山田 和雄、坂間 政利、伊藤 洋平、柴 俊明

報告書作成者：野口 敏朗

評価時期 令和 7年 3月

1 重点目標の評価

重点目標1 「自ら考え共に学ぶ子どもの育成」

・「問題解決型学習の実施」について教員は、「学び合いや体験を重視した学習」と「学力調査等を活用した学習」共に100%の実施率であり、その目的は達成したと回答している。評価指標の「国語の活用領域」等については、全国の正答率を、本区の該当学年が、それぞれ15%から30%上回っている中で本校は本区をさらに上回っていることを高く評価したい。一方で、個に応じた指導の充実については教員の回答は100%の達成となっているものの「十分達成」との回答は38%とやや低く、さらなる展開を期待したい。

・「自分から課題をもち、友達と協力して学習に取り組んでいる」ことを肯定している保護者は82%であり、学校の取組を認めている。一方この評価指標が、評価項目の「学習習慣の確立」に直接結びつく指標であるかは検討が必要と考える。

・ICT教育の推進についての成果は、研究発表会を通じて十分見て取れるものである。

重点目標2 「温かい人間関係を育む教育の充実」

・「縦割り班活動やその他の交流活動についての改善等」は95%の達成度となっていることからその成果はみられる一方で、「あいさつ」については98%の児童が「している」と回答したが「よくしている」児童は65%に留まっている。「あいさつをする」ことはより良い交友関係づくりの視点からも学校や保護者・地域一体となって励行されたい。

・「受容的な学校風土の形成」は、「友だちと仲良く生活している」児童は98%、「困ったことを先生に話せる」児童が76%である。残る2%、24%の児童をしっかりと見守ってほしい。また、道徳の授業公開は多くの保護者が参観できるよう実施に工夫されたい。

重点目標3 「地域の特性を生かした特色ある教育活動の推進」

・邦楽教育や金融教育、法教育については、保護者の理解度も96%と高く、年々、成果を上げていることが伺える。今後の社会動向から鑑み、金融教育や法教育等は重要となりつつあり、より体験的で実践的な展開を期待する。

・保護者や地域等との関係性は、学校公開や研究発表会からも伺えるようにとても良好であることが推察される。今後も更なる連携強化に努められたい。

2 今後の改善に向けた意見

学校の自己評価や児童・保護者へのアンケート調査は、適切に実施されていて、その集計や分析も良好であり、来年度への大きな指針となっている。何より、在校児童の素敵な笑顔が印象的だった。そもそも、すべての教育活動は「学校教育目標」に迫るものである。したがって、各重点目標も「学校教育目標」を強く意識して設定されたい。そのためにも重点目標の達成度を明確に把握できる評価項目・評価指標についてその関係性を検討し、明確に提示されたい。

3 その他の意見

校長の学校経営方針を踏まえ、教職員が協働し、有為な児童の育成に励んでいることが拝察できる。地域の学校に対する理解度も高く、協力的であることから、地域人材の学校教育への参画のあり方についても、より具体化し、一層の協力を求めてもらいたい。